

編集後記

●今回のキャッチアップには、新潟県胎内市が下水道汚泥の有効利用を図るために導入した「活性炭化設備」をとりあげました。この技術は、乾燥処理した下水汚泥後を900～950℃の高温で活性炭化するもので、下水汚泥資源化・先端技術誘導プロジェクト「LOTUS Project」で開発された技術の一つです。昨年の4月の運転開始から順調に稼働中しており、今後の展開が期待されています。

●メッセージは、(社)日本下水道管路管理業協会の長谷川健司会長に「Change」と題してご執筆いただきました。長谷川会長はの中で、「下水道は普及から維持管理の時代にチェンジした。今後は下水道施設の管理基準を下水道法の中で充実させる必要がある」と言及したうえで、「どのインフラにも負けないサービスを提供したい」と積極的な事業展開を強調しています。

●今号では、今年の2月に実施された第46回下水道新技術セミナーで、津野洋京都大学大学院教授が「下水道におけるリン回収技術の動向と展望」をテーマに行った講演を新たに編集して掲載しました。津野教授はリン除去からリン回収に至る技術の動向を解説するとともに、今後我が国が取り組んでいかなければならない課題を明確に示して

いらっしやいます。是非ともご一読ください。

●また、今号では、特集1として国土交通省の政策支援のために下水道機構が行っている11テーマの調査研究業務について、その概要を紹介しました。特集2では、昨年度の建設技術審査証明事業で審査証明が行われた新規16技術の概要を一挙ご紹介しています。マンホールと本管接続部の耐震化工法から下水汚泥の再資源化技術まで、民間企業の開発した新技術をご覧ください。

●エンジニアングリポートは、新たな下水汚泥資源化の手法として注目されている「珠洲市バイオマスメタン発酵に関する性能評価研究」と、地域の実情に合わせた下水道整備のあり方を探るための「下水道未普及解消クイックプロジェクト社会実験」の二つの取り組みの概要をわかりやすくまとめました。

●トビックスは、北海道の士幌町農業協同組合澱粉工場で行われている廃水処理を取材しました。UASBメタン発酵と膜分離活性汚泥法という水処理の最新技術を駆使したこの施設では、澱粉の製造過程で排出される日量3,000m³の廃水を処理しています。

(編集委員一同)

表紙の 写真



次世代の新しい技術への期待と本機構の成長を象徴する意味を込めて、子供の写真をシリーズとして紹介しています。写真のお子さんは、新井智明国土交通省都市・地域整備局下水道部下水道事業課課長補佐の長女のおしのちゃん(2歳)です。

この写真は、家族で品川水族館へ出かけた時の一枚ですが、まるでお魚と一緒に水中にいるように見えるみごとなワンショットですね。水族館が大好きで、色々な色の魚が泳ぐ水槽やイルカショーが大のお気に入りというおしのちゃん。家では「おままごと」に夢中で、ご両親だけでなく、家中のぬいぐるみ達にも手料理を振る舞っているそうです。この3月に2歳の誕生日を迎えたばかりですが、葉物野菜や蕎麦などの麺類が大好物とのこと。本当の手料理が食べられる日が待ち遠しいですね、お父さん。

題 字

財下水道新技術推進機構会長・葉山莞児
(大成建設株式会社代表取締役会長、(社)日本土木工業会会長)の揮毫によるものです。

季刊 下水道機構情報

Vol. 3 No. 8

2009年4月(春季号)

平成21年4月15日発行 発行者 葉山莞児
編集者 石川忠男
企画者 江藤隆

編集委員：栗原 秀人／中里 卓治／森島 嘉浩／小代 竜司／
高瀬 行廣／斉藤 実／岩下 真理／鳥海 弘／御崎 善浩

発行所 財団法人 下水道新技術推進機構

〒162-0811 東京都新宿区水道町3-1 水道町ビル7階
TEL 03(5228)6511 FAX 03(5228)6512